

00 はじめに

美しい山河と木のやさしさに抱かれて「健やかに活き活き」と育つ学び舎

新型コロナ対策としてのリモート授業の実施など一人一端末のICTの活用が進み、2020年から3・4年生の外国語教育も必修となり、子供たちは激変する時代に対応できる学びを必要とされています。しかし2年余りのウィズコロナの経験から、「ひと」はひととのふれあいが如何に大切かを学びました。

内閣府が示すSociety5.0は「ひと」を中心に据えたテクノロジーが実現する社会を目指しています。豊かな自然に囲まれ、ふるさとのやさしさに包まれ、健やかに伸びやかにSociety5.0の「ひと」として子供たちが育ってゆく学び舎を目指します。

01 提案概要

「小学校」とは、子供たちが初めて社会に出て学び始める「街」であり、そして大半の時間を過ごす第二の「家」と考えます。そのため、安全・安心が第一で、学びやすさ・学ぶ意欲を掻き立てる機能的で、川上村の自然に調和したワクワクする建物を、次世代に引き継ぐことが今回の提案の使命だと考えました。

外観は、山並みと調和する切妻を効果的に配し、中学校ランチルーム部分と統一感のあるガラス切妻を昇降口に採用。一方、大断面集成材を多用したダイナミックな空間づくりを旨とした中学校に対し、小学校では、子供（児童）の

スケール感（目線）を大切に空間づくりをしたい。平屋の軒先や丸太といった、「木」そのものが持つ素材感や、「家」的な感覚や平屋の軒の低さ、潤いのある中庭空間など、子供たちに「安心感」や「やすらぎ」を感じさせる空間づくりを目指します。

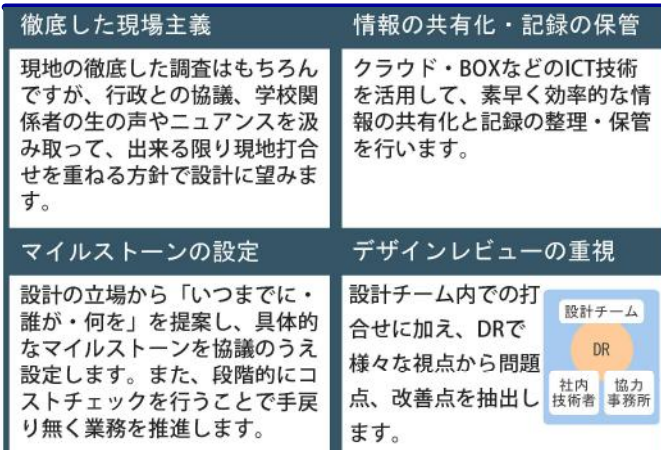
また、校舎の狭間から、効果的に山並みの景色を望める建築的仕掛けを各所に設け、八ヶ岳や男山・赤顔山・千曲川の景観など、子供たちの心象風景として焼き付け、川上村を愛する心を育める小学校を目指します。

02 ワークショップの開催

運営する教育委員会や教職員の皆さん、児童の両親や祖父母家族の皆さん、子供たちを見守る村民の皆さんと数回のワークショップで話し合いを深め、より川上村に相応しい小学校作りを目指します。



03 業務の進め方・手法・プロセス



04 経験豊富なスタッフ構成と実績

経験豊富なスタッフを配置し、関係者との打合せやワークショップを効率的効果的に進めていきます。

